

2年 生活科『とび出せ！町のたんけんたい』

単元のめあて

町を探検する活動を通して、町の場所やそこで生活したり働いたりしている人について考え、公共物や公共施設のよさや働きをとらえ、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることや身の回りにはみんなで使うものがあることがわかるとともに、それらに親しみや愛着をもって、正しく利用したり安全に生活したりすることができるようとする。

創造的な資質・能力の素地を育成するための視点

地域で働く人との対話を大切にし、自分たちの町について課題の発見・解決に資する情報収集にすすんで関わろうとする態度を養い、地域について愛着を深め、町のよさを家族や友達、1年生に発信できるようとする。

創造的な資質・能力の素地を育成するための手立て

実社会で活躍する人との連携

3回目の探検に行く前に、地域のお店や施設で働く人に役割や工夫、どのような思いや願いをもっているのかを知ることができるような質問を考え、インタビューをした。すすんで情報を収集し、地域に愛着を深められるようにした。

- ・蛸井商店
- ・いぐち花店
- ・ベーカリーホーム
- ・肉のミソグチ
- ・雑色駅
- ・CROSS珈琲豆店
- ・DOG GOODS SHOP Marco
- ・フレッシュイトウ
- ・鳥喜商店

学習サイクルと振り返りの工夫

町探検の学習をするにあたり、学習をより深めるために、一度ではなく、複数回探検を行った。「探検の前に見る視点を確認する→探検に行く→気付いたことや、見つけたものの報告をする→もっと知りたいこと、次に向けてやりたいことを考える」という活動をくり返し、次に何をするのか見通しをもてるようにした。

ワークシートに振り返りを書く際は「や：やったこと」「わ：分かったこと」「ぎ：疑問」「つ：次に向けて・友達のこと」と、視点を提示して振り返るようにした。

グループの編成・話合いの工夫

グループ編成については、児童が数回の探検を通して、より深く知りたいと思ったお店や施設を選び、同じ場所を選んだメンバーでグループを編成した。

話合いでは、司会や記録などの役割分担を決め、話合いのヒントとなる「話合いの順番カード」を各グループに渡し、スムーズに進められるようにした。

話合いを繰り返すことで、それぞれの役割でどんなことをするのか分かり、話合いを進められるようにした。

インタビュー内容を考えるときには、Yチャートを活用し、「人、もの、こと」に分けて質問を考えるようにした。

ICTの活用

学習の流れやめあてがよく分かるように、プレゼンテーション機能を使い、児童に授業内容を示した。用意することで視覚的に次に何をするのか分かりやすく、活動にすぐに取り組めるようにした。発表の方法を写真や動画で見せてイメージしやすく、取り組んでみたいという意欲を引き出せるようにした。

自分たちが行ったお店が分かるよう、GoogleMapsにお店の名前と写真を載せ、振り返りがしやすいようにした。

カメラ機能を使ってお店でのインタビューの様子やスライドで発表を提示する資料の作成を行った。

成果と課題

- ・こどもたち自身が「伝える方法」を選ぶことを大切にし、目的意識を繰り返し確認することで「1年生が楽しんでくれるために」という意識付けができた。
- ・Yチャートに集めた情報を収集する際に、付箋を動かせないようにしてしまったため、情報の分類・再編成が難しかった。
- ・1年生に「何を」伝えるかと「どのように」伝えるかと2つを考えるのは2年生として少し難しかった。